# SDGs達成に向けた取組みチェックリスト

事業者名：株式会社堀場エステック

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具合的な取組みを記載してください。
・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的取組みを記載のうえ、提出してください。

（様式第2号）

| 分類 | No. | チェック項目 | 基本 | チャレンジ | 具体的な取組み<br>（※事業者が記載する欄） | 主なSDGs（17のゴールと169のターゲット）<br>1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 組織・公正な取引 | 1 | 【内部管理体制】<br>・経営理念及び経営目標を社内で共有、実践している。 | ● | | 社是「おもしろおかしく（英語ではJoy&Funと表現）」を経営の根幹に、ビジネスを展開しており、阿蘇工場もこれに沿って全世界の全ての従業員に対して、社是を中心とする企業文化を浸透させるように、教育を行っている。 | | | | | | | | 8 | 9 | | | | | | | | 17 |
| | 2 | 【法令遵守】<br>・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。 | ● | | HORIBAグループグループ規程として「Code of Ethics（倫理綱領）」を制定し、阿蘇工場もこれに沿って全世界の従業員に、HORIBAグループにおける法令順守の考え方を説明している。 | | | | | | | | | | | | | | | | 16 | |
| | 3 | 【公正な競争】<br>・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している。 | ● | | HORIBAグループでは、TOPメッセージとして、「Open and Fairの精神のもと、あらゆる腐敗や対価性のない支払いにより獲得する売上を明確に拒絶する」と宣言しており、グローバルに腐敗防止の徹底に努めている。阿蘇工場もこれに沿った取り組みを実施している。具体的には、国内外の全てのグループ会社が、特定の支払に関して、支払時の妥当性確認や関係部門への定期的な教育を行なうとともに、定期的に監査を実施している。また、HORIBAグループでは、公正な取引を基本とした取引先との協力・信頼関係を大切にしている。事業を推進するにあたって、各国の競争法を遵守し、特にカルテル・談合等の自由な競争を阻害する行為を行わないよう、関係部門への教育を定期的に行っている。 | | | | | | | | | | 10 | | | | | | | 16 | |
| | 4 | 【組織体制】<br>・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。 | ● | | HORIBAグループの総務部、品質統括センター、経営企画部等、関係部署が連携して、阿蘇工場で環境データをまとめ、社内外にその結果を発信している。 | | | | | | | | | | | | | | | | 16 | |
| | 5 | 【知的財産保護】<br>・知的財産の保護に取り組んでいる。 | ● | | HORIBAグループでは、自社特許出願、意匠や商標登録の促進、競合に先んじる知財戦略を推進するための社員への教育、特許の業績貢献度に応じた褒賞制度を設け、海外を含むグループ会社の優秀な知財の表彰など、を行っている。また知財業界団体に参加し、他社知財担当者との親睦や業界動向に関する情報交換や勉強会を行っている。阿蘇工場もこれに沿って取り組んでいる。 | | | | | | | | 8.2<br>8.3 | 9 | | | | | | | | |
| | 6 | 【個人情報保護】<br>・個人情報を適切に管理している。 | ● | | HORIBAグループでは、社内規程及び個人情報保護方針により、個人情報の取り扱いを定め、阿蘇工場もこれに沿って社内で定期的な教育を行っている。 | | | | | | | | | | | | | | | | 16 | |
| | 7 | 【ステークホルダーとの対話】<br>・ステークホルダー（※）との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している。（※利害関係者：消費者、投資家等及び社会全体） | ● | | HORIBAグループでは、Code of Ethics（倫理綱領）において「適切に情報を開示し、ステークホルダーとの積極的な対話に努めます」と規定し、阿蘇工場もこれに沿ってステークホルダーの意見を適切に取り入れた経営に取り組んでいる。 | | | | | | | | | | | | | | | | 16 | 17 |
| | 8 | 【サプライチェーン管理】<br>・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応（ハラスメント・汚職・ | | ● | HORIBAグループ購買調達方針をWEBで公開し、サプライチェーンに対して、人権、環境、倫理面などの呼びかけを行っている。 | | | | | 5 | | | 8 | | 10 | | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| | 9 | 【災害や事故への備え】<br>・地震や水害などの自然災害や事故などに備え事業継続計画（BCP）を策定し、訓練や見直しを行っている。 | | ● | HORIBAグループでは、事業継続に関する基本方針を定め、阿蘇工場もそれに基づいて、各部における有事の際の初動体制をまとめた各部BCPを備えている。<br>また、医用と半導体においては、ISO22301の認証取得している。 | | | | | | | | | 9 | | 11 | | 13.1 | | | 16 | 17 |
| | 10 | 【事業承継】<br>・事業承継に関する検討・対策を行っている | | ● | ― | | | | | | | | 8 | 9 | | | | | | | | 17 |
| | 11 | 【公正な貿易】<br>・フェアトレード商品の調達に取り組んでいる。 | | ● | ― | 1 | 2 | | | 5 | | | 8 | | | | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| | 12 | 【差別の禁止】<br>・性別、年齢、障がい、国籍、出自などによる差別や各種ハラスメントを防ぐ体制が整備され、社内で差別や人権侵害がないことを確認している。 | ● | | HORIBAグループでは、すべての人々の人権を尊重することを「倫理綱領」で宣言し、阿蘇工場もこれに沿って採用、配置、教育、報酬、昇進などにおいて、人種、信条、肌の色、性別、宗教、国籍、言語、身体的特徴、財産、社会的身分、門地等の理由で嫌がらせや差別を受けない健全な職場環境の確保に努めている。また、セクシュアルハラスメントや、パワーハラスメント、その他あらゆるハラスメントについても一切、容認しない姿勢を明確にし、定期的な教育研修及び各社人事委員会等での継続的な啓蒙、検証を行っている。 | | | | 4.3<br>4.4<br>4.5 | 5.1<br>5.2<br>5.5 | | | 8.5<br>8.7<br>8.8 | | 10.2<br>10.3 | | | | | | 16.1<br>16.2<br>16.7 | |
| | 13 | 【労働安全衛生】<br>・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。 | ● | | HORIBAグループでは、各社の安全衛生委員会、グループ間の連携のためのグループ安全衛生連絡会議、社有車、薬品、高圧ガス、バイオ等各種分科会組織等を設置し、阿蘇工場もこれに沿って事故内容や再発防止策の共有等を行っている。<br>また、労働安全衛生法に定める職長教育を定期的に実施している。 | | | 3 | | | | | 8.8 | | | | | | | | | |

# SDGs達成に向けた取組みチェックリスト

事業者名：株式会社堀場エステック

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具合的な取組みを記載してください。
・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的取組みを記載のうえ、提出してください。

（様式第2号）

| 分類 | No. | チェック項目 | 基本 | チャレンジ | 具体的な取組み<br>（※事業者が記載する欄） | 主なSDGs（17のゴールと169のターゲット）<br>1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 労働・人権 | 14 | 【公正な待遇】<br>・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。 | ● | | HORIBAグループでは、働き方に対するさまざまな要望に対し、社員・契約社員・パートタイマーなどの多様な雇用体系を用意するなどし、阿蘇工場もこれに沿ってワークライフバランスにも配慮している。また、雇用体系ごとに担当業務を分類すると同時に、実態に応じて別コースへの登用を行うなどして適正な処遇を行い、すべての社員が「おもしろおかしく」働けることを目指している。今後も正規社員・非正規社員区分なく、一人一人の能力が発揮できる多様な雇用・給与・就業体系を今後検討、追加することで、対応を図っている。 | | | | | 5.5 | | | 8.5 | | 10.2<br>10.3 | | | | | | | |
| | 15 | 【ワークライフバランス】<br>・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためのワークライフバランスを推進している。 | ● | | HORIBAグループでは、「健康経営に関する宣言・方針」を掲げ、ワークライフバランスの支援に努めている。阿蘇工場もこれに沿って就業管理システムを通じた正確な労働時間管理に加え、各社の人事委員会等を通じて、定期的かつ継続的に、長時間労働を防止する体制を整えている。健康管理について一定の基準に該当する長時間労働者に対して産業医による面談の実施をするとともに、社員相談サービス会社と契約を結び、社員およびその家族がいつでも第三者に相談できる体制を作り、メンタルヘルスを含めた健康管理に努めている。 | | | 3 | | 5.5 | | | 8.5<br>8.8 | | 10.3 | | | | | | | |
| | 16 | 【人材育成】<br>・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。 | ● | | HORIBAグループでは、グループ教育訓練規程を定め、阿蘇工場もこれに沿って年度教育計画を作成し、教育を実施している。人財開発担当部門は計画を従業員に公示し、教育担当部署による指名、上司からの推薦、公募等により教育の機会を得ることができる。2009年からはノウハウの伝承と育成の場として、社員間で「学びあい、教えあう」ことを基本方針とする社内教育システム「ホリバカレッジ」を開講、多くのホリバリアンの成長の礎としてきた。新入社員研修においても、メンター、ジョブコーチ、育成責任者など関わるすべての人がともに成長するプログラムを設計、実践しており、また、キャリア入社、昇格などのタイミングに応じたキャリア開発、リーダーシップ開発にも注力している。そして、多様な人財の個性を最大限、発揮するためのホリバリアンの人財育成の根幹として、社是「おもしろおかしく」を中心としたフィロソフィーを共有するワークショップを展開し、グループ全体で、のべ3，000名を超える社員が参加している。 | | | | 4 | 5.5 | | | 8 | 9 | | | | | | | | |
| | 17 | 【健康経営】<br>・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上等に取り組んでいる。 | ● | | HORIBAグループでは、経営トップから「こころとからだの健康づくり宣言」を発出し、阿蘇工場もこれに沿って、健康経営に取り組んでいる。2019年、2020年には健康経営銘柄に選定され、2017年から5年連続で健康経営優良法人・ホワイト500に認定されている。 | | | 3 | | | | | 8 | | | | | | | | | 17 |
| | 18 | 【ダイバーシティ経営】<br>・多様な人材（女性、外国人、障がい者、高齢者等）が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。 | ● | | HORIBAグループでは、社内のダイバシティ推進のため、「ステンドグラスプロジェクト推進室」を設置し、経営層・人事部門とともに多様な人財が活躍するための制度改革や意識・行動改革に関わる施策を実行している。<br>ステンドグラスプロジェクトは、当社グループで働く全ての従業員をステンドグラスを構成するガラスと例え、様々な色や形の全てのピースが揃わないと、美しいステンドグラスは成り立たないという経営トップのメッセージを具現化するダイバシティ推進の活動で、阿蘇工場もこれに沿って取り組んでいる。 | | | | 4.4 | 5.1<br>5.5 | | | 8.5 | | 10.2<br>10.3 | | | | | | 16.7 | |
| | 19 | 【新しい生活様式への対応】<br>・新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策としても有効なテレワークや時差出勤、ウェブ会議等を導入している。 | | ● | HORIBAグループでは、2019年1月より、社員のワークライフバランスを保ちつつ、生産性を今以上に向上することをめざし、本在宅勤務制度を拡充した「GoodPlace勤務制度」（テレワーク制度）を国内グループ全社に導入している。従来の在宅勤務制度を拡充した本制度は生産性向上とワークライフバランスを目的としてスタートしたがコロナ禍において利用が加速。2020年は国内グループ従業員の約65％が、必要に応じてすぐに現場で利用できる本制度を利用した。 | | | 3 | | | | | 8 | 9.1 | | 11 | 12 | | | | | |
| | 20 | 【デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進】<br>・ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。 | | ● | 阿蘇工場では、高スキルを要する超微細傷や製品外観検査に対して画像解析を用いたスキルレスの仕組みの検証を行っている。また生産工程における製造・製品データを取得・診える化し、統計解析・機械学習による品質向上に向けた取り組みを開始している。 | | | | | | | | 8 | 9.1 | | 11 | 12 | | | | | |
| | 21 | 【ブライト企業】<br>・ブライト企業に認定されている。 | | ● | ― | | | 3 | 4 | | | | 8 | 9 | | | 12 | | | | | |

# SDGs達成に向けた取組みチェックリスト

事業者名：株式会社堀場エステック

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具合的な取組みを記載してください。
・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的取組みを記載のうえ、提出してください。

（様式第2号）

| 分類 | No. | チェック項目 | 基本 | チャレンジ | 具体的な取組み<br>（※事業者が記載する欄） | 主なSDGs（17のゴールと169のターゲット）<br>1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 環境 | 22 | 【環境汚染予防】<br>・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。 | ● | | HORIBAグループでは、廃棄物：ゼロエミッションの維持を目標として、阿蘇工場もこれに沿って廃棄物総発生量に対する最終埋立処分量の比率が1％以下となるように廃棄物総量の削減と廃棄物の適正な分別を徹底している。<br>有害化学物質：化学物質使用総量（重量換算）を把握している。PRTR法対象物質については、法令に対応した把握を実施、使用量の削減に努めている。 | | | 3.9 | | | 6.3 | | | | | 11.6 | 12.4 | | 14.1 | 15.1 | | |
| | 23 | 【エネルギー】<br>・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。 | ● | | HORIBAグループでは、GHG（地球温暖化ガス）の削減策のひとつとして、電力・都市ガス・燃料（ガソリン含む）を把握し、その使用効率を毎年、前年の1％向上を目標として、阿蘇工場もこれに沿って省エネルギー活動を推し進めている。<br>また、社有車両の利用率を監視して、その保有台数を削減している。社有車両についても、ガソリン車からよりクリーンな車種（HVなど）への変更も積極的に進めている。 | | | | | | | 7.3 | | | | | | 13 | | | | |
| | 24 | 【温暖化対策】<br>・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。 | ● | | HORIBAグループでは、国内グループ会社および生産拠点のGHGを毎年CO2換算値にて把握している。<br>気候変動の緩和策としてGHG（地球温暖化ガス）の排出総量を省エネルギー活動を中心に削減に取り組んでいる。排出総量削減の中期目標として、2019年排出総量を基準として、2030年までに20％削減を設定している。<br>阿蘇工場も、これに沿って2004年より京都～東京間，2006年に熊本～東京間での製品輸送をトラック輸送から鉄道輸送に切り替え、製品輸送時のCO2排出量削減に取り組んできた。 | | 2.4 | | | | | 7.2<br>7.3<br>7.a | | | | | | 12.4 | 13 | 14 | 15 | | |
| | 25 | 【生物多様性】<br>・自社活動が環境（生物多様性や生態系等）に悪影響を及ぼさないように配慮している。 | ● | | HORIBAグループでは、生物多様性活動方針を設定し、阿蘇工場も、これに沿って生物多様性保全に関する活動を実施している。休閑地を活用して、HORIBA FARM を開園し、農作物を従業員が種まきから収穫までを行い、在来生物等が生息できる環境を目指した活動に繋げている。<br>また、「電機･電子4団体 生物多様性保全の取り組みに関する活動」に基づき、「愛知目標」に関連した活動に取り組んだ。<br>ライフサイクルステージ毎の取組を今後も継続していく。 | | | | | | 6.6 | | | | | | | | 14 | 15 | | |
| | 26 | 【効率的な資源利用】<br>・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）に取り組んでいる。 | ● | | HORIBAグループでは、廃棄物削減活動の一環として、グループ会社において適正な廃棄物の分別を行い、リユース，リサイクルに取り組んでおり、阿蘇工場もこれに沿ってプラスチック削減などの取り組みを実施している。 | | | | | | | | | 9.4 | | | 12.2<br>12.4<br>12.5 | | 14.1 | 15 | | |
| | 27 | 【水の管理】<br>・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。 | ● | | 阿蘇工場では、排水の適切な処理を行うために、「浄化槽」「pH槽の設置、常時水質計測」を実施し、水質保全を図っている。 | | 2.4 | | | | 6.1<br>6.3<br>6.4<br>6.6 | | | | | 11.5 | | | 14.1<br>14.2<br>14.3 | 15 | | 17 |
| | 28 | 【環境に配慮した製品等】<br>・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる（グリーン購入、リサイクル製品認証等）。 | ● | | HORIBAグループでは、グリーン調達ガイドラインを公開し、阿蘇工場もこれに沿って製品を構成する部品や材料について環境負荷の低減を取引先へ要請している。また、調達品への化学物質含有状況やRoHS対応状況調査を通じ法令の確実な遵守に努めている。 | | | | | | | | | 9.4 | | | 12.4<br>12.5 | 13 | 14 | 15 | | |
| | 29 | 【食品ロスの削減】<br>食品ロスの削減に取り組んでいる。 | | ● | ― | 1 | 2 | | | | 6.4 | | | | | | 12.3 | | 14 | 15 | | 17 |
| | 30 | 【緑の保全管理】<br>・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。 | | ● | ― | | | | | | | | | | | 11.6<br>11.7 | | 13.1<br>13.3 | | 15 | | 17 |
| | 31 | 【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】<br>・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善またはや再生可能エネルギーの利用や供給に取り組んでいる。 | | ● | ― | | | | | | | 7.1<br>7.2<br>7.3<br>7.a | | 9.4 | | 11.5 | | 13.1<br>13.3 | | | | |
| | 32 | 【森林資源の循環利用に向けた取組み】<br>・”伐って、使って、植えて、育てる”の持続的な森林利用への取組みを推進している。 | | ● | ― | | | | | | 6 | | | 9.4 | | 11.3<br>11.4<br>11.5 | 12.2 | 13 | | 15 | | |
| | 33 | 【植林等の取組み】<br>・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。 | | ● | ― | | | | | | 6.1<br>6.3<br>6.6 | | | | | 11.3<br>11.4<br>11.5 | 12.2 | 13 | | 15 | | |
| | 34 | 【海洋ごみ】<br>・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。 | | ● | ― | | | | | | | | | | | | 12.2<br>12.5 | | 14 | | | |
| | 35 | 【環境に配慮した交通手段】<br>・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。 | | ● | ― | | | | | | | | | 9.4 | | 11.2 | | 13.1<br>13.3 | | | | |
| | 36 | 【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】<br>・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。 | | ● | 国内HORIBAグループにおいて2050年CO2排出量ゼロを目指すべく、2019年のCO2排出量を基準とした削減の中期目標と単年度目標を設定している。阿蘇工場もこれに沿って取り組んでいる。<br>現在の活動は工場・オフィスでのエネルギー消費の効率化と削減に重きを置いている。今後、自然由来のエネルギー（非化石率の高いエネルギー）の採用を実現できるように検討を始めている。 | | | | | | | 7.1<br>7.2<br>7.3<br>7.a | | 9.4 | | 11.6<br>11.a | 12.8 | 13 | | | | 17.2 |

# SDGs達成に向けた取組みチェックリスト

事業者名：株式会社堀場エステック

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具合的な取組みを記載してください。
・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的取組みを記載のうえ、提出してください。

（様式第2号）

| 分類 | No. | チェック項目 | 基本 | チャレンジ | 具体的な取組み（※事業者が記載する欄） | 主なSDGs（17のゴールと169のターゲット） 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 製品・サービス | 37 | 【製品・サービスの安全性と品質】<br>・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。 | ● | | HORIBAグループでは、ISO9001に基づいたIMSマニュアル、その他の関連する規程・基準を制定し、阿蘇工場もこれに沿って安全性や品質を確保できるシステムを構築している。 | | | 3.9 | | | | | | 9 | | | 12.4 | | | | | |
| | 38 | 【ユニバーサルデザイン 】<br>・障がい者、高齢者に特定せず、誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。 | ● | | HORIBAグループでは、Code of Ethics（倫理綱領）にユニバーサルデザインの考え方を明言し、その実現に向けて、阿蘇工場を含む全世界のグループ会社において取り組んでいる。 | | | | | | | | | 9.1 | 10 | 11.7 | | | | | | 17 |
| | 39 | 【地域資源】<br>・地産地消を推進し、熊本県産の原材料を優先的に使用している。 | | ● | ― | | 2.3<br>2.4 | | | | | 7.3 | 8 | 9 | | 11.a | 12.3 | 13 | 14 | 15 | | 17 |
| | 40 | 【木質化の取組み】<br>・自社の執務室等の天井や床、壁等の内装や外壁等に木材を使用し、木質化を推進している。 | | ● | ― | | | | | | | 7 | | | | | 12.2 | 13.1 | | 15 | | |
| | 41 | 【社会課題解決】<br>・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。 | | ● | HORIBAグループでは分析・計測技術を活用して、様々な社会課題の解決をサポートする製品を提供している。<br>中長期経営計画「MLMAP2023」で掲げた3つの重点施策は社会課題に向き合ったものであり、阿蘇工場もこれに沿って事業を通じて経済的価値を創出すると同時に社会的価値の創出も図っている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| | 42 | 【攻めの農林水産業】<br>・地域における産学官連携等による新たな品種開発を促進するなど、地域レベルで農林水産業の生産能力向上に努めている。 | | ● | ― | | 2.3<br>2.4 | | | | | | 8.2 | 9.2<br>9.4 | | 11.a | 12.2 | | 14 | 15 | | 17 |
| 持続可能な社会・地方創生 | 43 | 【地域への参画】<br>・自治活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。 | ● | | HORIBAグループでは、本社近隣住民や行政と連携し、美しい街作りのための活動、自社製品を使った環境出前授業の実施、農地の借り上げによる休耕田の活用を実施し、阿蘇工場も地産地消の推進等、様々な活動を行っている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| | 44 | 【防災、減災、レジリエンス（自助）】<br>・過去の地震や水害などの災害を教訓に、事業への被害を防止・軽減するため、ハザードマップを確認し、避難行動計画や事前防災対策を進めている。 | ● | | HORIBAグループでは、毎年11月に、防災ウィークを設定し、これに沿って阿蘇工場を含む全国各職場において、避難経路、避難場所、ハザードマップの確認等を行っている。また、東日本大震災を教訓に、東京セールスオフィスでは、定期的に徒歩帰宅訓練を行っている。 | | | | 4 | | | | | | | 11.5 | | 13.1 | | | 16 | |
| | 45 | 【防災、減災、レジリエンス（共助）】<br>・地域防災の担い手としての認識を持ち、防災士、水防団員、救助救急等の必要な技能を持つ社員を育成したり、地域消防団の活動に参加している。 | | ● | HORIBAグループにおける本社や阿蘇工場等大規模拠点では、自衛消防隊を組織化し、消火・応急救護・避難誘導・通報等の各班により活動している。また、地域の自衛消防組織（神田消防団）への参加、自衛消防組織の訓練大会（京都市南区）へのエントリー等も行っている。 | 1.5 | | 3 | 4 | | | | | | 10.2 | 11.5 | | 13.1 | | | 16 | 17 |
| | 46 | 【防災関連商品の開発・販売】<br>・防災関連商品の開発・販売を促進している。 | | ● | ― | | | | | | | | | 9 | | 11 | 12 | 13.1 | | | | |
| | 47 | 【SDGsの普及啓発】<br>・環境問題や人権問題をはじめとした社会課題の解決に向け、SDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。 | | ● | HORIBAグループでは、中長期経営計画「MLMAP2023」の3つの重点施策と関連するSDGsの目標を紐付けており、阿蘇工場もこれに沿って事業活動を通じてSDGsに示されている持続可能な社会の実現に取り組んでいる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| | 48 | 【インターンシップ等の受入れ】<br>・職場体験、インターンシップの受入れ、職場関連授業の実施など、地域の児童や学生に対し、職業の学びの場を提供している。 | | ● | 阿蘇工場では、毎年、近隣の中学校、熊本県内の高校、高専等のインターンシップの受け入れている。 | | | | 4 | | | | 8.6 | | 10.2 | | | | | | | 17 |
| | 49 | 【若者の地元定着等】<br>・若者の県内就職を促進する取組みを行っている。 | | ● | 阿蘇工場では、毎年、熊本県内の高校、高専等から新卒者の採用を行っている。 | | | | 4.4 | | | | 8.5<br>8.6 | | | | | | | | | 17 |
| | 50 | 【農林水産業の担い手確保】<br>・子どもに対する農林水産業教育を行うなど、地域における農林水産業従事者の確保に取り組んでいる。 | | ● | ― | | 2 | | 4.3<br>4.4<br>4.5 | | | | 8.6 | | 10.2 | | 12 | 13 | 14 | 15 | | 17 |

25　25

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具合的な取組みを記載してください。
・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的取組みを記載のうえ、提出してください。